

## 榎原 旧山陰街道沿い アカマツ・ クロマツ

榎原山ノ上町～  
榎原茶ノ木本町  
まつ科 / 常緑高木

アカマツとクロマツは、日本の代表的な二葉松で、アカマツは「しなやかで明るい」印象を与え、クロマツは「荒々しく硬い」容姿が特徴です。

樹姿、幹や葉の色などにも、それぞれの特徴が端的に現れています。

### クロマツ

幹は灰黒色で、老木になると深い亀甲状の裂け目ができ、不規則な鱗片となつてはがれ落ちます。

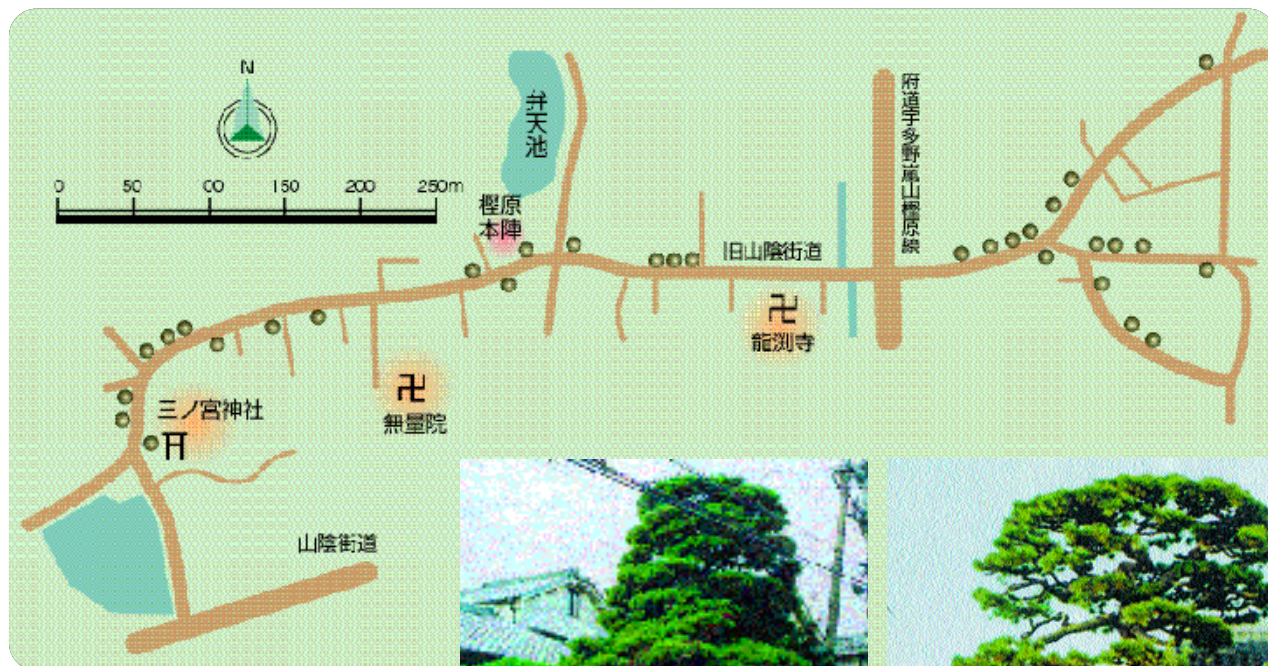
乾燥と湿気に強く、潮風への抵抗力もあるので、砂防林や防潮林などに多用されています。

### アカマツ

幹は赤褐色または黄褐色で、老木になると樹皮は厚く、亀甲状に裂けます。枝は水平に張り出して、傘形の樹冠になります。山の尾根などに多く、松茸はアカマツ林に生えます。建築材としても利用されます。



クロマツ



クロマツ

榎原は、江戸時代の参勤交代の大名が京市中の通過を許されていなかったため、大津から伏見を通り山陰街道に至る際の宿駅として本陣が置かれ、賑わいました。今も当時の面影を残す貴重な町並みです。



アカマツ

